

「自主、自立、自信」子供の「できた!」を見守る伴走者



R8.6月18日 11号
文責：園田

平和のバトンを繋ぎ継ぐ



平和祈念像の前で記念撮影

6月も半ばを過ぎ、時折広がる青空は夏の到来を感じるようになってきました。先週は低学年で多かった感染性胃腸炎も落ち着き、学校全体で落ち着いた様子で勉強にがんばる姿が見られています。

さて、先週11日(木)から二日間、6年生が修学旅行に行きました。一日目の平和学習では、胎内被曝された語り部の陸門(むつかど)良輔さんのお話を聴きました。陸門さんの母は、

妊娠四ヶ月の時、爆心地から3.3kmの場所で被爆されたそうです。その後、6人兄弟のうち3人が原爆の影響で亡くなられ、良輔さん自身も30歳でほとんど耳が聞こえなくなっていました。苦しみられたこれまでの人生を語られました。子供たちには、「人の命を奪う戦争に正義はない。人の命や自分の命を大事にする人間になってほしい」と、静かな口調でしたが、力強い表情で訴えられました。子供たちは、実際に現地を見て学ぶことで平和を守り続けていく気持ち新たにしようでした。その後のフィールドワークでもガイドさんの話をしっかり聴きながら現地を巡りました。

二日目はハウステンボスでの班活動です。園内に入り諸注意を聞くと、すぐに班ごとにアトラクションに向かっていきまし

心の絆を深める月間 開催中

一人ですぐに話しかけたい気持ち、一人ひとりの心に寄り添う支援体制を整えます。また、スクールカウンセラーによる研

「一人ですぐに話しかけたい気持ち、一人ひとりの心に寄り添う支援体制を整えます。また、スクールカウンセラーによる研

この期間は、学校・家庭・地域が一体となって連携し、子ども同士だけでなく、子どもと教職員、そして保護者や地域の皆様との「心のきずな」を深めることを目的としています。期間中、本校では主に以下の4つの視点で活動を展開してまいります。

みんな楽しそうに食べて楽しい思い出を作ったようでした。保護者の皆様には事前の体調管理から道具の準備等お世話になりました。ありがとうございます。

「心のきずなを深める月間」の取り組みをきっかけに、お子様の気持ちに寄り添いながら次の

子どもたちの健やかな成長には、学校だけでなく家庭や地域での見守りが必要不可欠です。いじめのない、誰もが安心して過ごせる学校づくりのため、ぜひご家庭でも「心のきずな」や「思いやりの心」について話し合う機会を持っていただければ幸いです。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

子どもたちの健やかな成長には、学校だけでなく家庭や地域での見守りが必要不可欠です。いじめのない、誰もが安心して過ごせる学校づくりのため、ぜひご家庭でも「心のきずな」や「思いやりの心」について話し合う機会を持っていただければ幸いです。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

修等を通じて、教職員の相談対応能力の向上にも努めます。二 児童生徒が主体となる活動の推進 運営委員会中心となり、「いじめを許さない学校・学級づくり」を目指した独自の活動を実施します。また、標語やポスターの制作、奉仕活動や異学年交流(縦割り班活動)などを通して、互いを思いやる心や自律心を育みます。

「心のきずなを深める月間」の取り組みをきっかけに、お子様の気持ちに寄り添いながら次の

「心のきずなを深める月間」の取り組みをきっかけに、お子様の気持ちに寄り添いながら次の

「心のきずなを深める月間」の取り組みをきっかけに、お子様の気持ちに寄り添いながら次の

「心のきずなを深める月間」の取り組みをきっかけに、お子様の気持ちに寄り添いながら次の

